

私たちは環境負荷を最小限に抑える最新の技術を導入し、地域の生態系を守る仕組みをつくり、省エネや廃棄物管理の徹底をすることで、自然と調和したまちづくりを推進します。

CO₂削減の取り組み

当社ではかねてよりCO₂排出量の削減に積極的に取り組んでおり、開発本部、営業本部、管理本部の各本部にまたがって組織される「CO₂削減委員会」では、中長期計画の達成に向けて毎月の成果を確認し、設備投資策の検討を進めてきました。その結果、単位面積あたりのCO₂排出量を最近5年間で36.1%削減しました。

これは新規出店するSCならびに既存SCのリニューアルにあたって最新の環境設備を導入したこと、継続的にエネルギー関連設備の検証と改善を行い、得られた成果をマニュアル化して全国のSCで水平展開したこと、そして従業員の環境に対する意識改革が一定の成果を挙げたものと考えています。また、重油炊きの熱源や自家発電など、エネルギー消費やCO₂排出量の大きい設備は段階的に廃止しています。

各SCでは屋上緑化や壁面緑化などのグリーン化も進めています。これにより夏季の館内における温度上昇が抑制され、省エネルギーにつながります。また駐車場やSC周辺にも植栽を行い、緑に囲まれてショッピングを楽しめる環境づくりを目指しています。

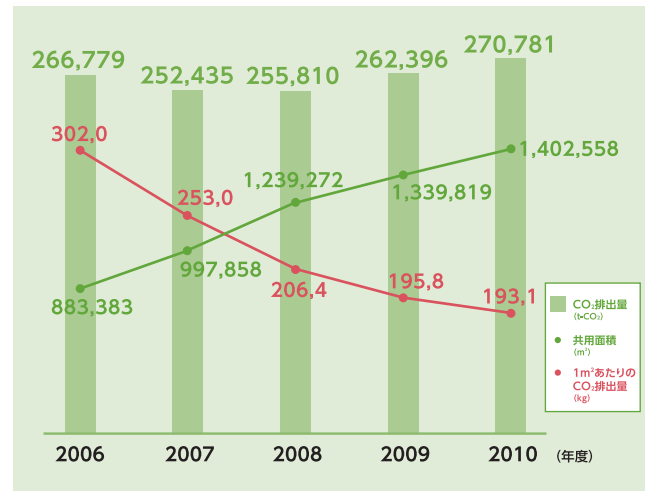
さらに、お客さま向けの環境コミュニケーションスペースとして「エコステーション」や「エコベンチ」を設け、さまざまな環境への取り組みをお伝えするとともに、エコバッグの持参やリサイクルへのご協力も呼びかけています。

国内全SCの 植樹本数	2006年度 1,404,461本	➔	2010年度 1,761,139本
----------------	----------------------	---	----------------------

EV(電気自動車)への対応

当社では今後普及が進むと見られるEV(電気自動車)への対応をいち早く進めています。イオンモールりんくう泉南は、「大阪EVアクション協議会」が推進する「大阪EVアクションプログラム」の一環として設置費補助金の交付先に選定され、急速充電ステーションを設けました。

また2011年3月にオープンしたイオンモール甲府昭和、イオンモール大牟田にも電気自動車の充電ステーションを設置しています。



新規SCのオープンや既存SCの増床に伴って共用面積は2006年度比で158.8%に拡大しましたが、その間CO₂排出量はほぼ横ばいに推移。単位面積あたりのCO₂排出量は36.1%削減されています。
※改正省エネ法対応による計算方式の変更に伴う再計算のため、2009年度以前のCO₂排出量は、昨年度のサステナビリティレポートに記載した数値と異なります。



SCの環境設備

氷蓄熱システム

SCの消費電力で最も多くを占めるのが館内の空調です。特に負担の大きい夏季の冷房に使用する電力を軽減するために、氷蓄熱システムを22SCに導入してきました。これは電力負荷の少ない夜間の電気を利用して蓄熱槽に氷を蓄えておき、その熱エネルギーを営業時間の冷房に活用するシステムです。全体の使用量がピークを迎える昼間の消費電力を抑えることで節電にも貢献できます。



地中熱利用

気温は季節によって変動しますが、地下の比較的浅い部分の温度は年間を通じてほぼ一定に保たれています。一部のSCでは、この熱エネルギー(地中熱)で外気を熱交換してSC内に取り込んで空調に利用し、消費電力を効果的に削減しています。冬は地中から熱源をすくい上げて暖房に利用し、夏場は熱を地中に放出して冷房を行います。

生物多様性保全の取り組み

イオンモールは、財団法人都市緑化基金が2010年10月の生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)に合わせて行った「生物多様性保全につながる企業のみどり100選」に優良事例企業として認定されました。

「生物多様性保全につながる企業のみどり100選」は、財団法人都市緑化基金が、生物多様性の保全にあたって、自社の敷地内に生物が生息・生育できる緑地を整備・保全したり、エコロジカル・ネットワークのあり方を考慮したうえで、地域の住民やNPO、小中学生とともに、環境教育や自然体験等の活動に取り組むなど、企業それぞれの視点で生物多様性保全に貢献し、その活動の実績を評価するもので、当社は「イオンモール草津」における生物多様性保全活動に対して評価されたものです。



2010年12月9日に行われた認証式では、国連開発計画親善大使の紺野美沙子さんから認定証が授与されました。

太陽光発電

太陽の光を電気に変えて利用する再生可能エネルギーとして広く知られる太陽光発電。イオンモールでは早くから太陽光発電システムの導入を積極的に進めており、現在は中国の2SCも含めて全16SCで設置を完了し、館内で使用する電力の一部をまかなっています。また発電量と削減できたCO₂量を館内に表示し、お客さまにも関心を持っていただけるよう工夫しています。



LED照明

各SCでは、蛍光灯や白熱電球などの従来型の照明から、消費電力がより少なく長寿命なLED照明への切り替えを進めています。また屋外の電飾サインにもLED光源ユニットが採用されています。



LED照明の「光の道」で駐車場の歩道をスムーズに誘導します(イオンモール新居浜)



計画地にあった水田を再現したビオトープ



アオモンイトトンボ

採取した表土を保管し再利用

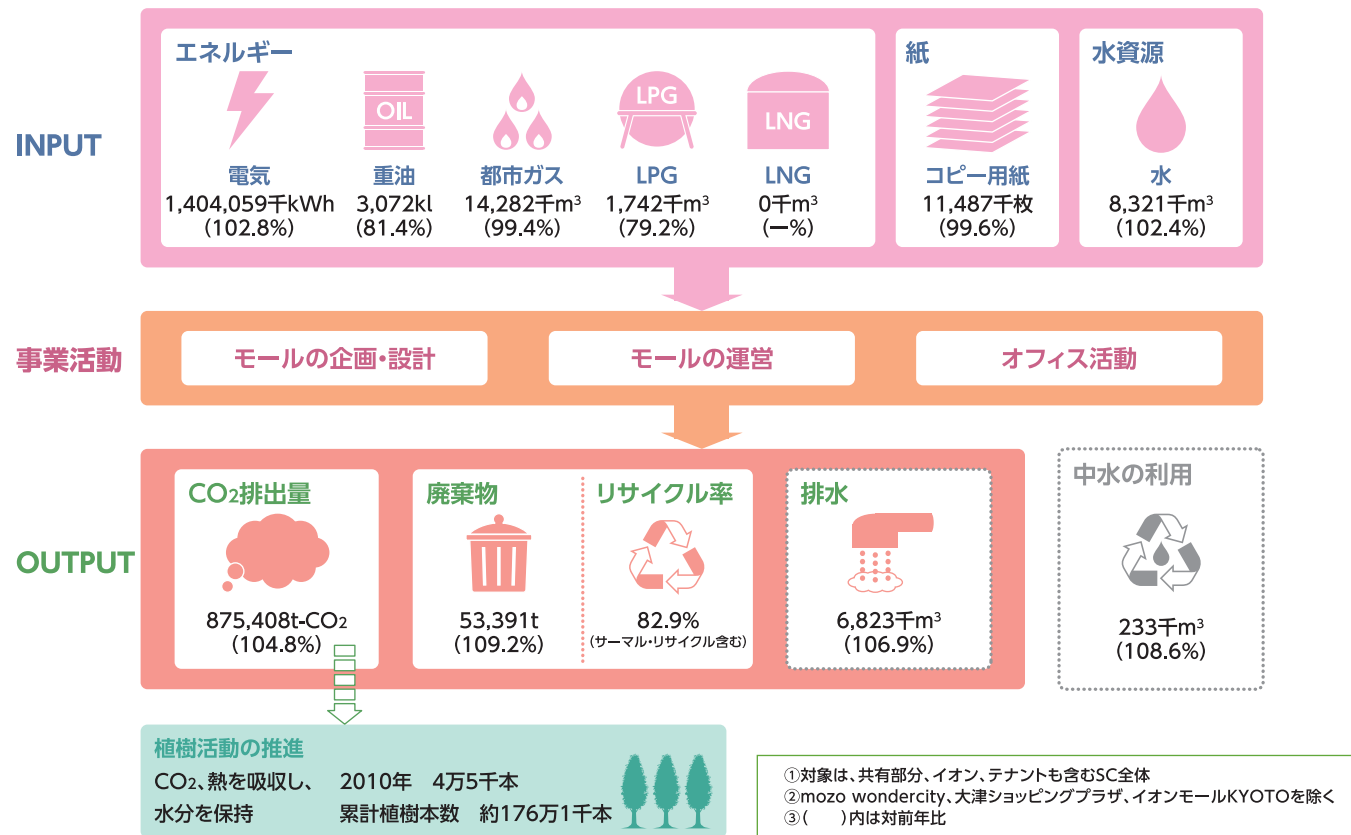
イオンモール草津では建設予定地に環境省レッドデータブックで絶滅危惧II類に指定される「ミスタカモジ」などが確認されたため、あらかじめ保管した表土を敷地内に再現した水田に張り付けて保全を行いました。水田ではトンボやバッタなどの昆虫も多く確認されています。

■ イオンモール環境方針

イオンモールは、資源エネルギーを有効に活用し、サービスの質を高めながらも、環境への影響を最小にするモールづくりを通じて、持続可能な社会の実現をめざします。そのため、環境方針を以下のとおり定め、あわせて、多くのお客さまとのコミュニケーションと地域貢献の履行に努めてまいります。

1. イオンモールは、地球温暖化の防止のため、CO₂排出を削減いたします。
2. イオンモールは、地球資源を保全し、循環型社会の構築をめざすため、ゼロエミッションモールを実現します。
3. イオンモールは、お客さまをはじめとするパートナーさまの生活環境の向上と、地域社会の発展と環境保全に貢献します。
4. イオンモールは、環境法規制や当社が受け入れを決めた要求事項を順守します。
5. イオンモールは、環境マネジメントシステムを構築し、事業部門ごとに目的・目標を制定し汚染を予防する体制を築き、継続的な改善を推進します。
6. イオンモールは、従業員全員で環境意識を高め、お客さま・パートナーさまへの啓蒙活動を続けます。
7. この方針を当社従業員及びともに働く従業員に周知するとともに、当社の環境情報を公開いたします。

■ 2010年度インプット / アウトプット(国内51SC)



■ 夏季の節電対応について

2011年3月の東日本大震災による影響で、東北から関東のエリアで夏季の電力不足が懸念されるため、イオンではグループを挙げてピークタイム使用電力の削減を目指しています。当社においても、お客さまに安心して快適なショッピング空間をご提供しつつ、下記のような取り組みを中心に使用電力の削減に努めます。

- 館内照明の一部消灯
 - 館内温度を約28℃を目安に設定
 - 一部エスカレーター・エレベーターの運転休止
- また各SCでは専門店にも節電への協力を要請し、従業員専用スペースに最大使用電力値の推移をグラフ化して掲示するなど、節電対応における「見える化」を進めます。あわせて店頭のポスターや館内放送を通じて、お客さまにも節電へのご理解とご協力をお願いします。



■ 「見える化」による廃棄物削減

廃棄物の削減では「何を、どこで、どれだけ廃棄しているか」を明らかにし、課題として意識づけることが重要です。各SCでは、廃棄物を基本17品目に分別したうえで品目ごとに計量するシステムの導入を進めており、2010年度までに39SCで稼働しています。

専門店では各品目を計量した後、計量済みのシールを貼り、品目ごとの保管場所にまとめます。今後は専門店の業種別に廃棄物の品目を分析したり、排出量のデータを専門店にフィードバックすることで、さらなる廃棄物削減や経営効率の向上が期待できます。

分別されたごみのうち、可能なものについては極力リサイクルに回し、各品目ごとにリサイクル率を集計しています。2010年度の全社リサイクル率は82.85%でした。

同時に、廃棄物処理法対策として、廃棄物業者さまと契約書や許可証の期限切れを未然に防止できるよう、SRシステムで自動的に告知するよう改善しています。



廃棄物は品目別に分別して計量。どの専門店からどれだけの廃棄物を出しているかをデータで把握しています。



生ごみ収納庫には空調を備え、悪臭や害虫の発生を抑えています。

従業員用のごみ箱(上)やSC館内に設置したごみ箱(下)でも分別を実施。お客さまのご協力もいただいでリサイクルを推進しています。



2010年度の廃棄物排出総量とリサイクル率

1	生ごみ	10,888t	86.30%
2	段ボール	15,619t	100.00%
3	雑芥	14,656t	55.01%
4	廃プラスチック	2,625t	98.74%
5	ビン	318t	97.18%
6	缶	558t	100.00%
7	発泡スチロール	118t	100.00%
8	廃油	1,128t	100.00%
9	紙類	1,951t	100.00%
10	粗大ごみ	197t	54.74%
11	その他不燃ごみ	1,259t	70.22%
12	廃蛍光灯	80t	87.77%
13	廃電池	11t	99.23%
14	割り箸	105t	96.52%
15	廃アルカリ、剥離剤	47t	81.95%
16	汚泥	3,147t	82.87%
17	廃エンジンオイル	—	—
18	店頭回収:アルミ缶	144t	100.00%
19	店頭回収:食品トレイ	41t	100.00%
20	店頭回収:牛乳パック	147t	100.00%
21	店頭回収:ペットボトル	353t	100.00%
全社リサイクル率(サーマル・リサイクル含む)			82.85%

■ コンクールの実施で効果的に廃棄物を削減

イオンモール岡崎では、廃棄物排出量の削減に向けた取り組みのひとつとして「廃棄物削減コンクール」を実施しました。それまで当SCでは各専門店の従業員さまへの具体的な分別教育などは行っていませんでしたので、これを機に各種の会議などでごみの分別について説明と徹底をお願いしたうえでコンテストを実施し、前月との比較で優秀な成績だった専門店さまを表彰させていただきました。コンテストを実施した月は、焼却されるゴミの量を前月比で約4,400kgも削減することができました。今後も協力してこのような環境への取り組みを実施していきたいと思ひます。

イオンモール岡崎
オペレーション担当 正木 宏明

